鉄鋼概況

2013 年鉄鋼輸出 過去最高

鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

2013 年 11 月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は，前月末比 2.0%減で 2 カ月ぶりに減少に転じ，在庫率は前月末比 9.9 ポイント低下し 135.1%となった。12 月の粗鋼生産量は，前年同月比 9.0%増の 934 万トンで 4 カ月連続増と回復が続いた。12 月の輸出（全鉄鋼ベース）は，国内向け供給がタイトな高炉メーカーの輸出抑制が続き前年同月比 9.1%減の 349 万トンとなったが，2013 暦年の全鉄鋼輸出は前年比 2.3%増の 4,306 万 9,000 トンで過去最高となった。経済産業省発表の 2014 年 1～3 月期の出荷相当粗鋼需要量によると，前年同期比で 4.6%増と 1～3 月期としては 3 年ぶりに 2,700 万トン台に達し，2013 年度の全国粗鋼生産は前年比 4.3%増の 1 億 1,188 万トンと 3 年ぶりに 1 億 1 千万トンに乗る見通しである。鉄連による 2014 年度の国内鋼材消費量見通しによると，前年度比 2.6%減の 6,172 万トンと前年度を下回る。12 月の世界（65 カ国）粗鋼生産は，前月比 0.8%増の 1 億 2,919 万 1,000 トンと 2 カ月ぶりに増加した結果，2013 年の世界粗鋼生産は前年比 3.5%増の 16 億 720 万トンと初の 16 億トンに乗せ，4 年連続で最高を更新した。

◆2013 年鉄鋼輸出，過去最高

鉄鋼連盟が発表した 11 月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は，前月末比 11 万 4,000 トン，2.0%減の 549 万 4,000 トンと，2 カ月ぶりに減少に転じた。在庫率は 135.1%で前月末比 9.9 ポイント低下した。一方，11 月末の普通鋼鋼材流通在庫は鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると，前月末比 2 万 5,000 トン，1.0%増の 263 万 9,000 トンと 3 カ月ぶりに増加した。11 月の販売量は前月比 1.5%減の 275 万 2,000 トンで，その結果 11 月末の在庫率は前月末比 2.3 ポイント上昇し 95.9%となったが，3 カ月連続で 1 カ月割れが続いている。

主要鋼材の在庫状況についてみると，11 月末の薄板 3 品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は，前月末比 5 万 7,000 トン減の 382 万トンと 2 カ月ぶりに減少した。10 月の台風の影響がなくなりメーカーからの出荷が正常化し，再び減少トレンドに入った。在庫率は 2.10 カ月（前月末は 2.07 カ月）で適正な水準を保っている。主要建材製品である H 形鋼の 12 月末全国流通在庫は，新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると，前月末比 4,900 トン，2.7%増の 18 万 4,600 トンと 3 カ月ぶりの増となった。在庫率も 1.98 カ月と 0.28 ポイント上昇した。流通での在庫補充や一部ミルのロール遅れ解消などで入庫が高水準になったほか，年末で稼働率が低下し，出庫が減少したことが在庫増の要因となった。

鉄連が発表した 12 月の粗鋼生産量は，前年同月比 9.0%増の 934 万トンで 4 カ月連続増と回復が続いた。1 日当たりの生産量は 30 万 1,200 トンで前月比約 8,000 トン減少したが，依然高水準の生産となっている。この結果，2013 暦年（1～12 月）の粗鋼生産量は前年比 3.1%増の 1 億 1,057 万トンとなり，3 年ぶりに前年実績を上回った。また，1 億 1 千万ト

ン超は 2008 年以来 5 年ぶり，1970 年以降で歴代 10 番目の水準である。2013 年の炉別生産では，転炉鋼が前年比 4.1%増の 8,568 万トン，電炉鋼が同 0.1%減の 2,489 万トンで，土木・自動車などの需要回復から高炉メーカーの生産が増加した。電炉鋼比率は 22.5%と前年比 0.7 ポイント低下した。鋼種別では普通鋼が 3.5%増の 8,613 万トン，特殊鋼が 1.9%増の 2,444 万トンとなった。

財務省が発表した 12 月の鉄鋼貿易統計によると，輸出（全鉄鋼ベース）は，前年同月比 9.1%減の 349 万トンとなった。国内向け供給がタイトな高炉メーカーの輸出抑制が続き 4 カ月連続の前年割れとなった。輸入は同 16.5%増 72 万 2,000 トンとなり 2 カ月連続で前年を上回った。地域別輸出では ASEAN 向けが 104 万 3,000 トン（同 13.4%減）と 3 カ月連続して前年割れとなり，アジア NIE's 向けは 96 万 2,000 トン（同 9.9%減）と 2 カ月ぶりに減少した。中国向けは 50 万 2,000 トン（同 4.2%増）と 4 カ月連続の増加となった。米国向けは 21 万トン（同 16.2%増）と 3 カ月連続の増となったが，中東向けは 14 万 3,000 トン（同 35.5%減）と 5 カ月連続の減となった。輸入の地域別内訳では NIE's からは 43 万 9,000 トン（同 10.4%増），中国からは 14 万トン（同 55.5%増）だった。

この結果，2013 暦年の全鉄鋼輸出は前年比 2.3%増の 4,306 万 9,000 トンとなり，2010 年の 4,299 万 5,000 トンを超え過去最高となった。また，ASEAN 向けが 1,351 万 1,000 トン（前年比 5.8%増）となり，前年まで地域別で首位だった NIE's 向け（1,296 万 2,000 トン，同 0.5%増）を逆転するという構成変化も進んだ。中国向けは日中関係悪化の余波もあり，前年比横這いの 601 万 7,000 トンだった。輸入は同 4.7%減の 734 万 6,000 トンと，円高が修正されたことで 2 年連続の前年割れとなった。

◆1～3 月期粗鋼需要 2,785 万トン――経産省見通し

経済産業省が発表した 2013 年度第 4 四半期(2014 年 1～3 月)の出荷相当粗鋼需要量は，前期見込み比 1.4%減の 2,785 万トンと 2 四半期ぶりに減少する。しかし，前年同期比では 4.6%増と第 4 四半期としては 3 年ぶりに 2,700 万トン台に達する。第 4 四半期の鋼材需要量は，普通鋼が 1,910 万トン（前期比 0.4%減），特殊鋼が 516 万トン（同 0.7%増），合計 2,426 万トン（同 0.1%減）としている。このうち普通鋼は内需が 1,250 万トン（前年同期比 2.2%増，前期比 3.1%減），輸出が 660 万トン（8.1%減，5.2%増），合計で 1,910 万トン（1.6%減，0.4%減）としている。普通鋼鋼材内需の部門別消費量をみると，建設関連は公共土木が前年同期比 5.4%減・前期比 11.8%減，民間土木がそれぞれ 10.5%増・10.6%増，住宅建築は 2.9%増・10.6%減，非住宅建築は 1.8%減・7.3%減と予想している。製造業では，自動車が消費税増税前の駆け込み需要，好調な北米向け輸出などから前年同期比 7.7%増・前期比 4.0%増とともに増加基調となっている。造船は前年同期比では 5.1%減・前期比は 0.2%増で，産業機械は逆に前年同期比では 5.1%増，前期比では 0.8%減である。電気機械は前年同期比 10.6%増・前期比 4.1%増とともに増加するとみている。普通鋼鋼材の輸出は，前期比では台風による出荷のずれこみの影響で 5.2%増となるが，前年同期比ではアジアの供給過剰の影響などで 8.1%減とみている。

同省に見通しによると，2013 年度の全国粗鋼生産は前年比 4.3%増の 1 億 1,188 万トンと 3 年ぶりに 1 億 1 千万トンに乗る。下期は上期比 0.5%増の 5.609 万トンと下期として 4 期ぶりに上期を上回り，2007 年度下期以来の高水準に達する。

◆2014 年度国内鋼材消費量，前年度比減――鉄連見通し

鉄連が行なった 2014 年度の国内鋼材消費量見通しによると，前年度比 2.6%減の 6,172

万トンと前年度を下回る。普通鋼鋼材については前年度比 2.8%減の 4,918 万トンとしている。部門別にみると，建設では土木が経済対策による公共事業の押し上げ効果が縮小し，建築も非住宅の拡大は続くものの，消費税増税の影響から住宅が落ち込むとみている。鋼材消費は土木が 5.7%減の 595 万トン,建築が 3.5%減の 1,544 万トンで,建設全体では 4.1%減の 2,139 万トンとしている。製造業では，自動車がノックダウンセット生産は増加基調を維持するものの，国内販売向けの完成車生産が減少するため鋼材消費量は 3.5%減の 1,118 万トンとなる。造船は新規受注が回復し起工に底入れがみられるため 2%増の 392 万トンとしている。また，産業機械は設備投資関連が回復するが，建機の排ガス規制強化から 1.7%減の 471 万トンとし，電気機械は設備投資の回復からウエイトの大きい重電・通信機械を中心に増加し 2%増の 318 万トンとしている。製造業全体では 1.7%減の 2,779 万トンとみている。特殊鋼鋼材については，ウエイトの高い自動車・産業機械の減少から 2%減の 1,254 万トンと見通している。

表－1　鋼材部門別消費量の見通し

（単位：万トン，%．△はマイナス．　出所：日本鉄鋼連盟）

年度	普通鋼合計	建設業	土木	建築	製造業	造船	自動車	産機	電機	二次	容器	その他	特殊鋼鋼材
2009	4,608	1,868	604	1,264	274	593	1,020	328	302	242	145	110	1,115
2010	4,816	1,856	557	1,299	2,961	600	1,057	455	327	259	147	117	1,216
2011	4,941	1,918	555	1,364	3,023	556	1,131	506	318	245	143	125	1,276
2012	4,896	2,082	608	1,474	2,814	433	1,114	470	302	235	133	127	1,247
2013(見込み)	5,058	2,231	630	1,601	2,827	385	1,158	479	312	238	129	127	1,280
2014(見通し)	4,918	2,139	595	1,544	2,779	392	1,118	471	318	230	125	125	1,254
前年度比	△2.8	△4.1	△5.7	△3.5	△1.7	2.0	△3.5	△1.7	2.0	△3.1	△2.9	△1.9	△2.0

◆2013 年世界粗鋼生産，初の 16 億トン

世界鉄鋼協会（WSA）がとりまとめた 12 月の世界（65 カ国）粗鋼生産は，前月比 0.8%増の 1 億 2,919 万 1,000 トンと 2 カ月ぶりに増加した。操業率は 74.2%と前月比 1.6 ポイント低下し，前年同月比では 2.2 ポイント上昇した。日産量は 65 カ国で 2.4%減，中国で 0.9%減といずれも 3 カ月連続で減り，中国以外も 3.8%減と 2 カ月ぶりに減少した。新興国では韓国の日産量は前月比 1.3%増と 2 カ月ぶりに増え，インドは 0.1%の微増ながら 2 カ月連続で増，ブラジルは 5.1%減と 3 カ月連続の減となった。先進国では EU27 が 11.2%減，日本は 2.6%減と 2 カ月ぶりに減り，北米は 1.4%減と 3 カ月連続で減少した。この結果，2013 年の世界粗鋼生産は前年比 3.5%増の 16 億 720 万トンと初の 16 億トンに乗せ，4 年連続で最高を更新した。全体の約半分を占めた中国が 5,400 万トン増加し，中国以外がわずかに減る中で全体を押し上げた。2013 年の国別生産上位をみると，中国以下，日本，米国，インド，ロシア，韓国と順位は変わらなかったが，米国，ロシア，韓国は 4 年ぶりに前年比減となった。❑